

平成28年産米をめぐる情勢について

1. 27年産米の販売状況 (JA全農にいがた・7月15日現在)

需給環境は一定の改善がはかられています。

(1) コシヒカリ

契約は概ね完了しているものの、作柄不良等による販売計画の減少や相対価格の値上げの影響などにより、

量販店等の特売が他県産米にシフトしているため、1月以降は低調な出荷が続いており、出荷進捗は75%と前年を3%下回っています。

(2) こしいぶき

飼料米へのシフト等により販売計画が大幅に減少していることや、全国的な低価格銘柄の不足を反映し、出荷進捗は83%と順調に推移しています。

2. 28年産米の需給見通し

国の基本指針等をふまえて試算すると、28年10月末持越在庫は18万ト(前年より▲23万ト)と見込まれ、

また、29年10月末在庫は、作況が100で5万トとほぼ均衡しますが、仮に、作況が103となれば28トになると見込まれます。

米消費の減少傾向は続いており、28年産米の作柄(豊作基調で推移)や水田活用米穀(非主食用米)の取り組み次第では、再び需給緩和となることが想定され、

予断を許さない状況にあります。

3. 28年産米の販売対策

(1) 基本的な考え方

27年産米の作柄不良などにより減少した需要を回復させ、単年度の全量販売をはかるため、新米出回り時から積極的に販売促進対策を実施します。

産地間競争が激化するなか、新潟米ブランドの一端

【表1. 28年産主食うるち米の出荷状況(全農新潟県本部、7月15日現在)】

	出荷実績(前年比)							出荷進捗 (販売計画比)	
	~12月	1~3月	4月	5月	6月	7月上旬	合計	27年産	26年産
	コシヒカリ	93%	72%	71%	80%	85%	88%	82%	75%
こしいぶき	106%	96%	80%	71%	55%	47%	85%	83%	83%
合計	96%	78%	76%	81%	79%	82%	84%	76%	79%

【表2. 主食用米等の需給見通し(全農推定)】

		全体需給		備考	
		作況100	作況103		
26年10月末持越在庫	A	29	29	全農持越在庫	
27R Y	27年産生産量	B	788	788	国の公表値
	供給量計	C=A+B	817	817	
	主食用等需要量	D	776	776	
27年10月末持越在庫	E=C-D	41	41	全農持越在庫	
28R Y	27年産生産量	F	744	744	国の公表値
	供給量計	G=E+F	785	785	
	主食用等需要量	H	767	767	27R Y需要量776万トより▲9万ト
28年10月末持越在庫	I=G-H	18	18	27年10月末より▲23万ト	
29R Y	28年産生産量	J	743	766	生産数量目標
	供給量計	K=I+J	761	784	
	主食用等需要量	L	756	756	27R Y需要量776万トより▲20万ト
29年10月末持越在庫	M=K-L	5	28		

※生産量、主食用等需要量は国の基本指針等にもとづき試算。



の向上をはかる必要があることから、マスメディアやイベント等を通じたPR活動を強化します。

【表3. 販売促進対策の主な取り組み内容】

種類	区分	項目	内容	実施時期
うるち米	新潟米全体PR	新潟米テレビ・ラジオCM	・新潟米のブランド力向上をはかるとともに、新米の出回りを周知することで、卸などが実施する販促活動を支援する。 ・CM内容は、消費者や卸から一定程度評価を得たことから、前年産の内容を継続する。(放映量を増やす。)	新米出回り期
		県との共同宣伝	首都圏を中心に、新潟米体験イベントなど、話題性を喚起できる宣伝企画を実施する。	10～11月
		実需者との共同宣伝	大手コンビニや実需者と連携し、新潟米使用を表示した商品を通じて新潟米のPRをおこなう。	通年
		PRイベント	各種イベントで、おむすびやサンプルを配布し、新潟米の美味しさや産地の取り組みをPRする。 サッカーアルビサンクスデー(新潟)、ABCラジオ祭り(大阪) 味の素スタジアムリレーマラソン(東京)、米の陣(新潟)等	通年
	販売促進	販促提案	年間を通じた販促計画を取引先へ提案し、協議をおこなう。	8月
		JAトップセールス	JAと全農県本部が一体となって取引先への販売推進をおこない、産地指定等、結び付き販売の強化をはかる。	通年
		卸との共同宣伝	全農県本部と卸等が共同で宣伝を実施し、全農委託米穀の販売促進をはかる。	通年
		産地精米の販売促進	しらゆき米クローズドキャンペーン等	新米・春期
		その他	・マネキン試食、新潟米レディ派遣などの店頭販促支援 ・新潟米情報発信サイト、各種販促資材の作成	通年
	酒	全体PRイベント	にいがた酒の陣等の日本酒のPRイベントに協賛し、本県産酒米の消費拡大をはかる。	通年
もち	全体PRイベント	各種イベントでお餅を配布・PRし、本県産もち米の消費拡大をはかる。	通年	

平成28年産米出荷結集のお願い

出荷結集により、魚沼産コシヒカリ「おぢや米」の市場競争力・ブランド力の維持・向上と生産者手取りの向上を図ります。

- ・景気低迷と消費者の低価格指向により、販売環境は今まで以上に厳しい状況が続いています。そのような状況下で産地がバラバラに販売すると魚沼米のブランド力・販売力が低下し、価格下落を招くこととなります。
- ・魚沼米のブランド力を維持・向上するためには、統一的な販売方針のもと、戦略的・効率的に販売していくことが必要です。

28年産米につきましても、JAへの出荷結集にご理解とご協力をお願い申し上げます。